

今回は、まるで葉っぱのような美しい緑色の羽をもつ、樹上性のキリギリスの仲間、「クダマキモドキ」を紹介します。

南河内の山々や山麓部には、「ヤマクダマキモドキ」と「サトクダマキモドキ」、それに「ヒメクダマキモドキ」の3種類がいます。

名前に「モドキ」が付けられるとは何とも失礼な話ですが、彼らの“モデル”となった「クダマキ」とは一体どのような生きものなのでしょうか…？

実は、江戸時代、「クツワムシ」や「ウマオイ」などは、その鳴声が機織（はたおり）のとき紡車を巻く音に似ていることから“クダマキ(管巻)”と呼ばれていたのですが、それらの大型昆虫に本種が似ていることが命名の理由なのです。

つまり、彼らのモデルとなったのは「クツワムシ」などの昆虫ですが、何故かストレートに「クツワムシモドキ」と名付けられることはなく、“モデル”の“あだ名”に“モドキ”を付ける、という少々変則的なものだったのです…

クダマキモドキたちにとっては、非常に口惜しいこと…なのかも知れません。

ちなみに、“モデル”と似ているのは外見だけで、本種の鳴き声は“ジジ、ジジ”とか“チッチ”などと、かなり控えめな感じですね…

◆写真①～④： サトクダマキモドキ

- ◇本種の体長は 50 mmほどで、クダマキモドキの仲間では大きいほうです。
- ◇山地部にはほとんど生息していないようで、出会うのは山麓部や平地部が多いです。
- ◇写真①の個体は、大きな産卵管が見えるので雌ですね。(目つきは険しいですが…)
- ◇写真③は顔のアップですが、こちらは“とぼけた”表情に見えます。
- ◇写真④の個体は、大きな糞が4つもありますので、結構長時間、この場所にじっとしていたのでしょね… (注：写真④は琵琶湖畔の公園で撮影したものです。)

◆写真⑤・⑥： ヤマクダマキモドキ

- ◇本種の体長は 50 mm弱で、「サト」よりもやや小さいです。
- ◇外見は「サト」とそっくりなのですが、前脚の色で簡単に見分けることができます。「ヤマ」の前脚の腿節は赤褐色、「サト」は緑色です。
- ◇また、本種は山地性で、平地性の「サト」とは棲み分けているようです。

◆写真⑦・⑧： ヒメクダマキモドキ

- ◇本種の体長は 30 mm弱で、前記の2種に比べて小ぶりです。
- ◇元々南方系の種のように、近年のヒートアイランド化などが分布拡大に影響しているのでしょうか、最近では都市部の公園でも見かけます。(写真⑧は交尾中のようです)

◆写真⑨： クダマキモドキの産卵痕

- ◇大きな産卵管を使って、細めの生きた枝の皮を縦に裂きながら卵を産み付ける、という少々荒っぽい産卵手法です…(枝が枯れることはありませんが、生々しい傷が残ります。)
- ◇この写真は別の場所(万博公園内)で撮影した「サトクダマキモドキ」の産卵痕です。

















